

CASBEE®新潟 | 評価結果 |



- 使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアル、CASBEE-新築(簡易版)2010年版
CASBEE-新築(簡易版)2010年追補版(BEI対応)
- 使用評価ソフト: CASBEE新潟(v.2.1)

1. 建物概要

建物名称	サニーウイング関屋本村	
建設地	中央区 関屋本村町1丁目68番2	
用途地域	第一種中高層住専、準防火地域	
建物用途	病院,	
竣工年	2017年3月 予定	
敷地面積	1,092.78 m ²	
建築面積	655.20 m ²	
延床面積	2,420.01 m ²	
階数	地上3F、地下1F	
構造	S造	
評価の段階	実施設計段階評価	
評価の実施日	2016年6月10日	

2. CASBEE新潟の評価結果

	B+	$BEE = \frac{Q \text{ 建築物の環境品質}}{L \text{ 建築物の環境負荷低減性}} = \frac{46.2}{37.4} = 1.2$
S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★		

3. 新潟市の重点項目の評価

重点項目	平均スコア	評価	項目	スコア
1. 長寿命化の取組み 誰もがずっと安心して生活するために	3.3		バリアフリー	4.0
			維持管理	3.0
			更新性	3.0
2. 地震への取組み かけがえのない人命、財産、思い出を守るために	3.1		耐震・免震	3.0
			信頼性	3.2
3. 大雨への取組み 大雨につよいまちづくりのために	3.0		雨水排水負荷低減	3.0
4. 自然エネルギー利用の取組み 地球温暖化対策のために	3.5		建物の熱負荷抑制	4.0
			自然エネルギー利用	3.0
5. 資源循環の取組み 持続可能な循環型社会づくりのために	4.7		節水	4.0
			リサイクル材の使用	5.0
			再利用可能性向上	5.0
6. 水と緑を活かす取組み 豊かな田園空間を次世代に引き継ぐために	1.5		生物環境の保全・創出	1.0
			敷地内温熱環境の向上	2.0
7. 新潟のまちなみへの取組み 地域の魅力を伝承・創造していくために	3.0		まちなみ・景観への配慮	3.0
			地域性への配慮、快適性の向上	3.0

4. 新潟市の重点項目の配慮事項

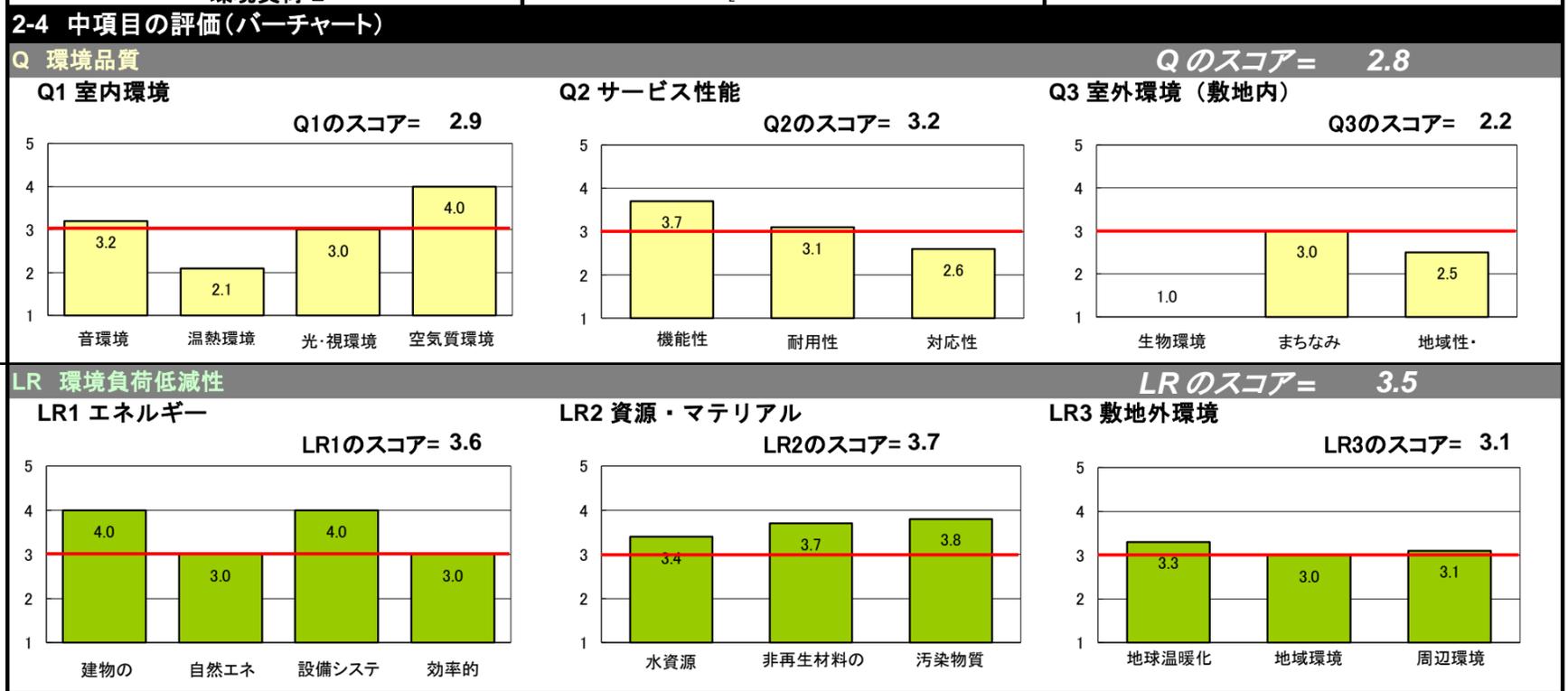
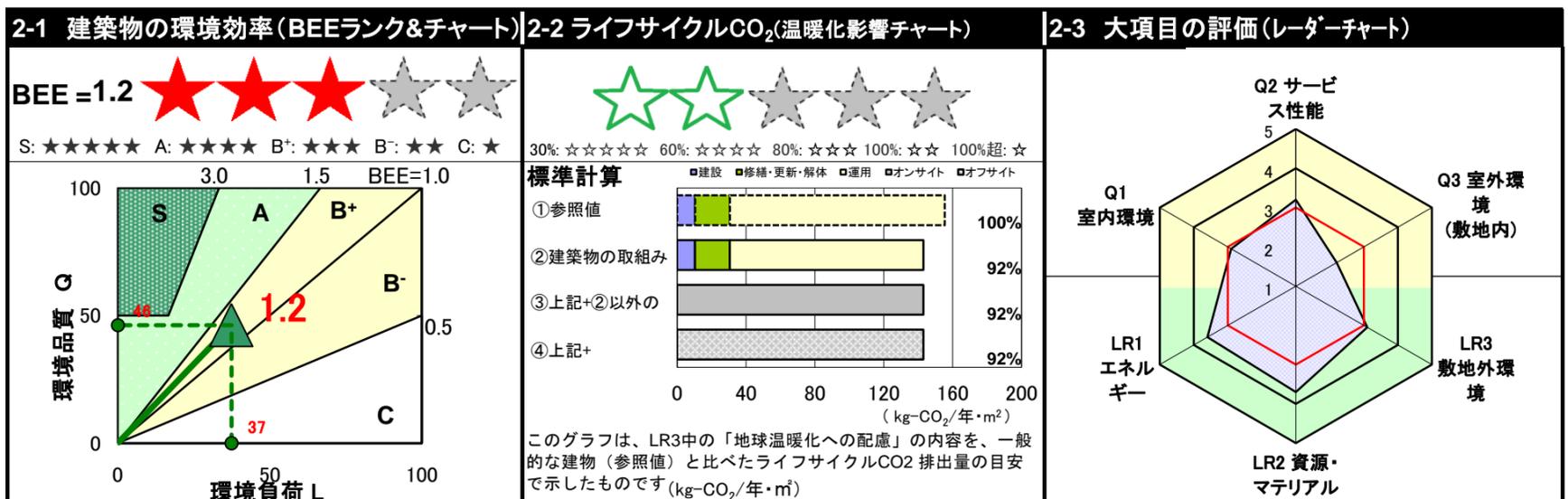
- 新潟県福祉のまちづくり条例整備基準に準拠したバリアフリーの「安全・安心」な、やさしい施設づくりとしています。
- 構内舗装はインターロッキングブロック舗装・透水性アスファルト舗装とし雨水の地中浸透化を積極的に図っています。
- リサイクル資材を最大限採用することにより資材循環の取組みに配慮します。

CASBEE[®]新潟

■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアル、CASBEE-新築 (簡易版) 2010年版 | 使用評価ソフト: CASBEE新潟(v.2.1)
CASBEE-新築 (簡易版) 2010年追補版 (BEI対応)

評価結果内訳

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	サニーウイング関屋本村		階数	地上3F、地下1F
建設地	新潟県新潟市中央区		構造	S造
用途地域	第一種中高層住専、準防火地域		平均居住人員	53 人
気候区分	地域区分IV		年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	病院		評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年3月 予定		評価の実施日	2016年6月10日
敷地面積	1,093 m ²		作成者	長谷川 雅樹
建築面積	655 m ²		確認日	2016年6月10日
延床面積	2,420 m ²		確認者	長谷川 雅樹



3 設計上の配慮事項		
総合 入居する高齢者にとって「安心・安全」な第二の住処として、やさしい施設づくりを目指し、新潟県福祉のまちづくり条例整備基準に準拠したバリアフリーの計画としています。また、居室は南面および北面に面した採光・通風に有利な配置とし、居住環境の向上にも配慮しています。		その他 0
Q1 室内環境 各居室には大きな開口を持つ窓を設け、採光・通風が十分得られる平面計画とするとともに、間仕切壁は遮音仕様として室内環境の快適性が図れる施設としています。	Q2 サービス性能 新潟県福祉のまちづくり条例整備基準に準拠したバリアフリーの、やさしい施設づくりとしています。また、介護職員にとってもサービスのし易い動線計画・室配置に配慮しています。	Q3 室外環境 (敷地内) 敷地外周部に植込を設け敷地内緑化に努めるとともに、東側駐車場入り口部に空地を設け、地域コミュニティの場としての活用にも配慮した施設づくりとしています。
LR1 エネルギー 居室の空調機は個別設置し、入居者の判断による温度設定や不要室の空運転防止等を図り、使用エネルギーの低減化を考慮しています。	LR2 資源・マテリアル リサイクル資材の重点的採用による資源循環の取組みに配慮するとともに、節水型便器・自動水栓設置により消費資源の低減を図った施設づくりとしています。	LR3 敷地外環境 構内舗装はインターロッキングブロック舗装・透水性アスファルト舗装とし雨水の地中浸透化を積極的に図っています。また、建物は3階建ての塔屋付きとなりますが最小限の高さ設定とするとともに、色調も周辺環境と調和したものととしています。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される